

「サクラ・スプリング・フェスティバル」で日米交流 *U.S., Japan celebrate during Yokota Sakura Spring Festival*

March 27, 2022

By Tech. Sgt. Christopher Hubenthal
374th Airlift Wing Public Affairs

3月26日、横田基地は「サクラ・スプリング・フェスティバル」を開催し、地元の人々と祝うために基地の一部を開放した。

このフェスティバルは、横田基地と地元地域との絆を深めることを目的に長年行われている。

第374空輸航空団副司令官ジュリー・ガウリン大佐は、「サクラ・フェスティバルは、皆が一堂に会する機会だ」と述べ、「特に海外においては、こうした繋がりを持つことはとても大切だ。我々は本国の家族と離れているが、日本人々と一日を共に過ごし、交流を楽しむことで、より強い絆を築くことができる」と話した。

基地では、COVID-19の感染リスクを軽減するために、フェスティバルの会場全域に手指消毒ステーションを設置するなど、安全対策を実施と呼び掛けを行った。

フェスティバルに参加した福生市の加藤育男市長は、安全に留意しながら花見や催しを楽しむよう、来場者に次のように話した。

「横田基地司令官にお招き頂きまして、来させて頂きました。この高いところから見させて頂きまして、こんなに大勢の人がお見えになっていることにびっくりしました。コロナ禍の中でどれだけ耐えて、耐えて、そして国内のイベントも全部なくなっている中でこうやってフェスティバルを開いて頂いたことに感謝しています。これだけは申し伝えておきますが、コロナ感染症だけは気を付けて、マスクだけはして頂いて、地域交流を楽しんで頂ければと思います」

基地の外から集まった約6千人の来場者は、桜の開花を見守りながら、横田の住民たちと共に大道芸や生演奏などを楽しんだ。

音楽のステージでは、米海軍第7艦隊音楽隊や米空軍太平洋音楽隊アジアが楽曲を披露した。

太平洋空軍音楽隊の打楽器奏者ロバート・ブラウニング技能軍曹は、チームメンバーはパフォーマンスに全力を注いでいたが、日本人の反応も引けを取らなかったと振り返り、「来場者には、基地で楽しんだ音楽を記憶に留め、基地住民の日常や生活、そして地域のために行っていることの一部を見てもらいたい。我々がここにいる意義や任務について、より理解を深めてもらえれば嬉しい」と語った。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受け、横田基地が同フェスティバルを開催するのは2019年以来であり、今年は日米関係の強化を図りたいとの思いで実施に踏み切った。

ガウリン大佐は、「日本のパートナーとの強力な同盟と絆を維持することは、かつてないほど重要になっている」「日米は巨大な同盟国であり、助け合いが重要だ。地域同士、軍同士の交流を図ることは、自由で開かれたインド太平洋を実現する確かな抑止力を維持することに繋がる」とコメントした。

